

第 33 回 廃棄物資源循環学会研究発表会の開催にあたって

第 33 回廃棄物資源循環学会研究発表会
実行委員会委員長
宮崎大学 教授 土手 裕

第 33 回廃棄物資源循環学会研究発表会を九州支部により宮崎県宮崎市で開催するにあたり、実行委員会を代表して皆様のご参加を心より歓迎申し上げます。九州地域では、これまで 1996 年に第 7 回（福岡市）、2006 年に第 17 回（北九州市）、2015 年に第 26 回（福岡市）の研究発表会を開催してきましたが、福岡県以外での初めての開催となります。宮崎県について一部紹介させていただくと、「日本のひなた宮崎県」というキャッチフレーズのもとに畜産業、林業が盛んであり、ブロイラー飼養羽数全国 1 位、豚飼育頭数全国 2 位、肉用牛飼育頭数全国 3 位、木材生産量全国 2 位を誇り、本格焼酎出荷量も全国 1 位となっています。

今大会は前回の岡山大会に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大防止を取りつつ現地における従来型の対面方式とオンラインを利用した方式のハイブリッド方式による研究発表会となりました。さらに今大会ではポスター発表は対面のみとし、意見交換会も感染拡大防止策を十分にとった上で対面で行うなど、徐々に平常時の発表会形式に戻りつつあります。研究発表は、総予定件数 272 件、口頭発表 188 編、ポスター発表 57 編、国際セッション 27 編、12 の企画セッションとなっており、企業展示・市民展示等も行います。特別プログラムは、宮崎の特産である本格焼酎の魅力について宮崎大学名誉教授の水光正仁氏に基調講演をいただき、宮崎県・宮崎市でのゼロカーボンを目指した地域特性に見合った循環経済についてパネルディスカッションを通して理解を深める内容になっています。意見交換会は新型コロナウイルス感染拡大を防止するために、参加者の人数制限や時間の短縮、ノンアルコール・軽食の提供など、平常時とは異なる形式での実施となりますが、3 年ぶりに対面形式で行い、有益な意見交換会となるように準備しております。施設見学会としては、最終日に 2 つの半日コース「焼酎廃液からのエネルギー回収施設見学コース」および「鶏ふん・木質バイオマス発電施設見学コース」を企画しました。宮崎県の主要産業である畜産業・林業・焼酎製造から発生する廃棄物等の有効利用の取り組みについて紹介する内容になっています。

開催地宮崎は、「神話のふるさと」呼ばれており、「古事記」や「日本書紀」に登場する場所が現在でも多く残されています。その場所が持つ神秘的な静寂さや空気感（心地よい湿気、清浄さ）など悠久の時を超えた神話の世界を堪能しつつ、大いに意見交換できる場を整えておりますので、是非宮崎にお出でいただき、第 33 回廃棄物資源循環学会研究発表会にご参加いただきますよう心よりお願い申し上げます。